

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 5 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009 年～2011 年

課題番号：21530789

研究課題名（和文）

公害教育運動の基礎的研究；環境教育史研究の構築

研究課題名（英文）

Studies in Educational Movements against Kogai; Toward Historical Study of Environmental Education

研究代表者

安藤 聡彦（ANDO TOSHIHIKO） 埼玉大学・教育学部・教授

研究者番号：40202791

研究成果の概要（和文）：1960 年代以降日本各地で展開されてきた公害教育運動について、地域研究（水俣市・出水市、四日市市、大阪市、青森県六ヶ所村）、理論研究（藤岡貞彦の公害教育論の再検討）、比較研究（イギリス社会批判的環境教育、カナダ先住民環境教育）を通して、その主な特徴を明らかにした。4 人の研究分担者と 9 人の研究協力者として定例研究会と現地調査を積み重ね、比較環境教育生成史研究の第一歩を踏み出すことができた。

研究成果の概要（英文）：We have studied Educational Movements against Kogai (environmental disruption) which have developed since the 1960's at the various parts of Japan through regional study (Minamata-city & Izumi-city, Yokkaichi-city, Osaka-city, Rokkasho-village), theoretical study (reconsidering study of Kogai Education by Sadahiko Fujioka) and comparative study (socially-critical environmental education in the UK, environmental education for the first people in Canada) and could clarify the main features of them. We, 4 researchers and 9 assistant researchers, have organized regular meetings and regional surveys, and could make a step toward comparative historical study of environmental education.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育史、環境教育

## 1. 研究開始当初の背景

環境教育研究は国内的にも国際的にも次第に組織化されてきているが、そのなかにおいて環境教育についての歴史的研究、すなわち環境教育史研究は内外ともに未だ十分に展開されるに至っていない。日本における環境教育の出発点のひとつとされる公害教育運

動については、個別の研究が積み重ねられつつもその総体を把握する研究が試みられていない。

## 2. 研究の目的

日本において 1960 年代以降展開されてきた公害教育運動について、以下「3」で述べる

3つのアプローチを通して、その地域的展開の諸相、教育学研究における引き取り方、そして同時代の他国の環境教育運動との異動、を明らかにする。それによって環境教育史研究を構築するための第一歩を踏み出すことをあわせて目的とする。

### 3. 研究の方法

以下の3つのアプローチを採用した。

- ① 地域研究：公害教育運動が展開された地域のうち4箇所（水俣市・出水市、四日市市、大阪市、青森県六ヶ所村）を選び、資料の所在を探索しつつ、運動の概要を把握する。
- ② 理論研究：公害問題と向き合った日本の教育学研究の代表的かつ先駆的事例として藤岡貞彦の業績に注目し、その公害教育論の再評価を行う。
- ③ 比較研究：イギリスの社会批判的環境教育とカナダの先住民環境教育の研究及び実践の動向を把握する。

### 4. 研究成果

成果については以下の通りである。

- ① 地域研究については、水俣市・出水市、大阪市、四日市市、青森県六ヶ所村で調査を行い、資料の所在と運動の概要を把握することができた。すなわち、水俣市については、水俣病対策市民会議の成立から教師たちによる水俣病の授業の組織化、そして水俣病センター相思社による「水俣病を伝える」取り組みの創始に至る一連の経緯を明らかにした。また、出水市においては、高校教師・鎮守寛を中心に1970年前後に出水市における「水俣病の教育」の取り組みの概要を把握した。大阪市については西淀川公害の下での喘息児サマー・キャンプの展開過程を検討した。四日市市については、公害市民塾の担い手である澤井余志郎のライフストーリーの一端を明らかにした。六ヶ所村については、むつ小川原開発下の開発問題懇談会の取り組み、及び下北半島の核開発問題と向き合った3人の女性たちの物語を分析した。
- ② 理論研究については、藤岡貞彦の1960年代半ば以降の公害教育に関する諸論稿を検討し、その理論的構造と研究史的位置について確認することができた。すなわち、1960年代半ばから「公害と教育」問題の研究に関心を抱いた藤岡が、日教組<公害と教育>分科会、<公害と教育>研究会、国民教育研究所<環境と教育>研究委員会にかかわりながら自らの公害教育研究を展開し、それを『教育の計画化』（1977年）において「教育権と環境権の統一」「教育環境論の構築」等の一連

の理論問題に定式化したことを明らかにした。その作業によって、藤岡は日本における社会批判的環境教育研究への途を切り開いた、と評価することができる。

- ③ 比較研究については、イギリスの社会批判的環境教育とカナダの先住民環境教育についての調査を行い、それらの研究動向と実践動向の概要をつかむことができた。すなわち、イギリスについては、ジョン・ハックルの1960年代から90年代にかけての社会批判的環境教育論の構築過程をその社会的文脈とともに析出した。またカナダについては、同国の環境教育史における先住民環境教育の位置づけについての検討を行った。

公害教育運動の研究については、1970年代から90年代初頭にかけて藤岡貞彦や福島達夫によってその教育的意義や教育研究における問題性の探究がなされたが、90年代末以降はとりわけ若手研究者たちによって個別地域の研究が徐々に積み上げられてきたものの、その全体をどう観るか、という議論は十分なされてこなかった。また、さきにも指摘したように、日本の環境教育研究においては、この運動そのものが必ずしも十分注目されてこなかった。本研究は、そうした状況にあって、地域研究・理論研究・比較研究という3つのアプローチを組み合わせることによって、公害教育運動の全体像を見通す初めての試みである。国内外で関係者の物故が続き、また311の一連の出来事が発生するなどして、調査にはかなりの困難も生じたが、当初の予定にそれほど大きな隔たりを生じさせることなく3年間の共同研究を終えることができた。

地域研究の積み重ねは一定程度進んだものの、それらが同時代のなかでどのようなネットワークを築きながら、どのように展開（あるいは衰退）していったのか、そこに藤岡らの知識人たちはどのようにコミットしていったのか、など、公害教育運動の全体的な形をつまびらかにするためにはまだすべき作業は多い。また、その作業に取り組みつつ、日本の公害教育運動を同時代のイギリスやカナダにおける運動と比較し、世界の環境教育生成史における日本の公害教育運動の位置づけを明らかにする作業も、両国の動向のさらなる分析をふまつつ、進めていかねばならない。そうした作業を総合的にすすめながら、環境教育史研究の課題と方法について、国内外の研究蓄積をふまえて検討していくことも重要な課題である。

なお、当初は環境教育史関連資料のアーカイブづくりの方法についても検討を目指していたが、それについては十分検討することができなかった。今後の課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- ① 土井妙子、四日市塩浜小学校における在日韓国・朝鮮人教育に関する一考察、教育実践研究 (金沢大学教育実践支援センター)、査読有、第 37 巻、2011 年、11-27 頁
- ② 小栗有子、徳之島から立ち上げる環境教育研究-研究の枠組を広げること求めて-、鹿児島大学生涯学習教育研究センター紀要、査読無、第 8 巻、2011 年、5-18 頁
- ③ 原子栄一郎、環境教育というアイデアに基づいて環境教育の学問の場を開く、環境教育、査読有、第 19 巻 3 号、2010 年、88-101 頁
- ④ 小栗有子、ESD 研究における「地域」との向き合い方、環境教育、査読有、第 20 巻 1 号、2010 年、16-24 頁
- ⑤ 安藤聡彦、コメント、環境教育、査読有、第 19 巻 1 号、2009 年、93-94 頁

[学会発表] (計 7 件)

- ① 安藤聡彦、社会教育研究と開発・環境問題及び ESD との関係、日本社会教育学会第 58 回大会、2011 年 9 月 18 日、日本女子大学 (西生田キャンパス)
- ② 安藤聡彦、原子栄一郎、土井妙子、小栗有子、他 (全 12 名)、公害教育運動の基礎的研究 I / 研究の枠組、日本環境教育学会第 22 回大会、2011 年 7 月 16 日、青森大学
- ③ 曾貧、古里貴士、公害教育運動の基礎的研究 II / 運動の成立と展開; 沼津・三島と六ヶ所村を事例として、日本環境教育学会第 22 回大会、2011 年 7 月 16 日、青森大学
- ④ 原子栄一郎、小栗有子、公害教育運動の基礎的研究 III / イギリス社会批判的環境教育論とカナダ先住民環境教育論; 比較研究の視点から、日本環境教育学会第 22 回大会、2011 年 7 月 16 日、青森大学
- ⑤ 土井妙子、もうひとつの公害教育-四日市市立塩浜小学校における健康教育実践-、日本カリキュラム学会第 21 回大会、2010 年 7 月 10 日、佐賀大学

[図書] (計 3 件)

- ① 安藤聡彦、旬報社、地球環境の未来を創造する; レスタ・ブラウンとの対話、2010 年、220-248 頁
- ② 土井妙子、旬報社、地球環境の未来を創造する; レスタ・ブラウンとの対話、2010 年、286-310 頁

[産業財産権]  
○出願状況 (計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計◇件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

安藤 聡彦 (ANDO TOSHIHIKO)  
埼玉大学・教育学部・教授  
研究者番号: 40202791

### (2) 研究分担者

原子 栄一郎 (HARAKO EIICHIRO)  
東京学芸大学・教育学部・教授  
研究者番号: 70272630

土井 妙子 (DOI TAEKO)  
金沢大学・学校教育系・教授  
研究者番号: 50447661

小栗 有子 (OGURI YUKO)  
鹿児島大学・生涯学習教育研究センター・准教授  
研究者番号: 10381138

### (3) 連携研究者: なし

研究協力者: 関上哲 (富士見丘学園)、曾貧 (首都大学東京・非)、古里貴士 (東海学院大学短期大学部)、友澤悠季 (日本学出振興会特別研究員)、三谷高史 (日本学術振興会特別研究員)、岩佐礼子 (東京大学大学院)、小山田和代 (一橋大学大学院)、竹下清一郎

(東京学芸大学大学院)、丹野春香 (埼玉大学大学院)